大腸癌治療 ～下部消化管外科について～

当科では大腸癌の予定手術の 90%以上を腹腔鏡下手術で行っております。外科スタッフには大腸癌の日本内視鏡外科学会技術認定医を 2 名擁しております。大腸癌治療ガイドライン（2019 年版）でも推奨されている側方リンパ節転移陽性を伴う進行直腸癌に対しては腹腔鏡下側方郭清を行っており、治療切除率や生存率の向上に日々取り組んでおります。

さらに切除が困難と思われる巨大病変や肥満例の下部直腸癌に関しては、病巣に近く術野確保が容易な経肛門的全直腸間膜切除術（TaTME）を導入し、さらなる低侵襲手術を実践しております。

手術療法だけでなく、発生部位や病期により外来化学療法を基本とした術前化学放射療法や術後の補助化学療法に関しても、薬物認定看護師のサポートのもと治療を行っております。また進行癌症例や病態により人工肛門造設術が予定される場合には、術前から皮膚・排泄ケア専門看護師がサポートし、患者さまの QOL を損なわない対策を講じております。